



トピック

2022/12/10 成城・祖師谷九条の会

メール: sei.jososhigaya9@gmail.com

清水先生と憲法を語る集い

12月3日、日本体育大学教授清水雅彦先生より憲法の基礎、ウクライナ侵略、改憲問題などについてのお話を聞いた後、参加者のみなさんと一緒に議論を行い理解を深めました。

また、改憲ストップに向けた「市民と野党共闘」の課題とともに市民一人ひとりにとっての課題についてのお話も興味深く、納得のできるご指摘がありました。

以下にお話の概要をご紹介します。

憲法の基礎について

憲法 (constitution) の意味は、国家の組織や構成のことを言う。国家にはどのような組織があり何を定めるかを規定する法。

国家権力を縛ることで人権を守る。

憲法は、国の最高法規であって、その条規に反する法律は効力を有しない(98条)とあるが違憲性の審査を行う日本の裁判所は、機能していない。

例えば民法750条(夫婦同姓を強要)を2回も合憲の判決を出している。

最高裁判官の国民審査で×はわずか10%(辞めさせたい裁判官に意思表示の投票を行った比率)、罷免された裁判官はいない。国民の責任、憲法を使いきれしていない。

実質改憲としての「敵基地攻撃論」

50年代から敵基地をたたくことは法理上可能、政策的にはしないの政府答弁があり、2000年代に入って質的な変化、ミサイルに燃料を注入するそれは着手と考えていいとか、2020年になって急に敵基地攻撃の話が始まったわけではない。

令和4年版『防衛白書』に「保持できる自衛力は、自衛のための必要最小限度のものでなければならぬと考えられている」とある。「考えている」からを変更している。

受身形になりどこか他人事のようになって突然変わった。意図不明で要注意である。

憲法9条の解釈について

第1項と第2項解釈の組み合わせ

組み合わせ

みなさんは、どう解釈しますか下記の表をみながら議論してみてください。

■多数説は、

① A説+乙説

(9条2項全面放棄説、「武力なき自衛権」論)

学界

■少数説は、

② A説+甲説 (限定放棄説)

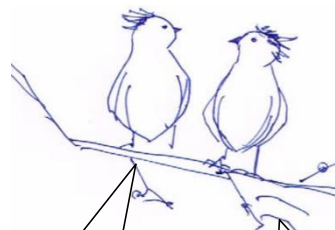
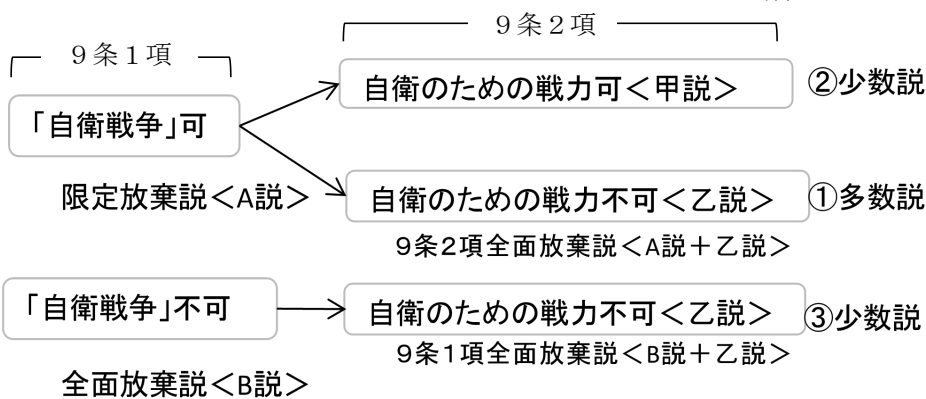
タカ派

③ B説+乙説

(9条1項全面放棄説)

私(先生)

(注)丸付数字は、下記表の丸付数字に対応。



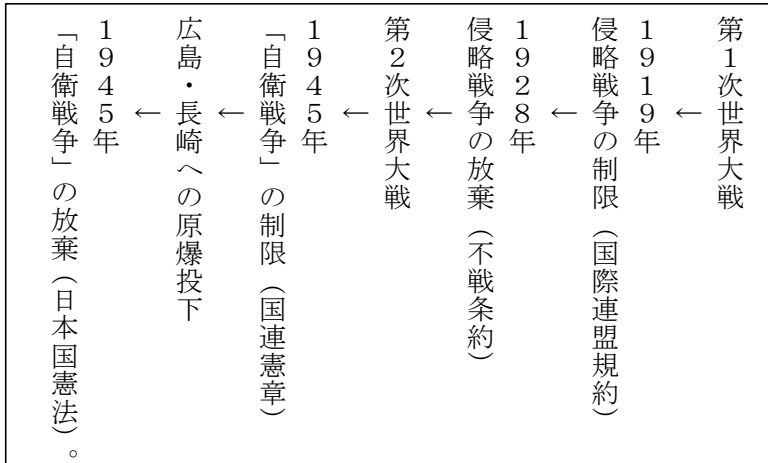
ヒトには、争いに区別があるの？

命を奪い合う争いに自衛とか侵略とか私たちには考えられないよ

(裏面へ続く)

戦争違法化の流れ

9条を歴史的に考える



9条は戦争違法化の最先端。
日本は一步先をいく優等国、レベルダウンして元安倍首相のいう普通の国になるのか。
27カ国目の「軍事のない国家」になるべき。

ロシアによるウクライナ侵略の問題点と

日本における9条改憲論との関係

国連憲章との関係
プーチン大統領は、国連憲章51条「注1」で正当化するが自衛権行使規定（51条）に違反している。ロシア以外が認めていないドネツク、ルガンスク「共和国」は国際法上国家か、ロシアだけが認めた国家を集团的自衛権「注2」を理由に守るため、無理がある。

日本における改憲論との関係
ウクライナ侵略でロシア系住民を保護、ナチスのポーランド侵攻でも住民保護を言った、自民党改憲案（2018年3月）で「国民の安全」を追加し、外国にいる日本人保護で自衛隊を海外に出すための改憲案にしている。

[注1]

国連憲章51条
「…国際連合加盟国に対して武力攻撃が発生した場合には、安全保障理事会が国際の平和及び安全の維持に必要な措置をとるまでの間、個別的又は集团的自衛の固有の権利を害するものではない。…」

1928年以前は、戦争は合法で、当事者以外は中立を守ることが国際ルールだったらしい。

今日のお話で9条は人類希求の最高到達点だと分かったわ。

集团的自衛権行使の実態と

国連憲章上の問題点

1944年ダンバートン・オークス提案に集团的自衛権行使はなかった。アメリカ主導で規定を入れた。NATOなどの軍事同盟成立に繋がった。
行使の実態は大国が小国に攻め込む時正当化に使った。ワルシャワ条約機構は解体したのにNATOは拡大。
国連憲章の集团的自衛権規定を問う必要がある。

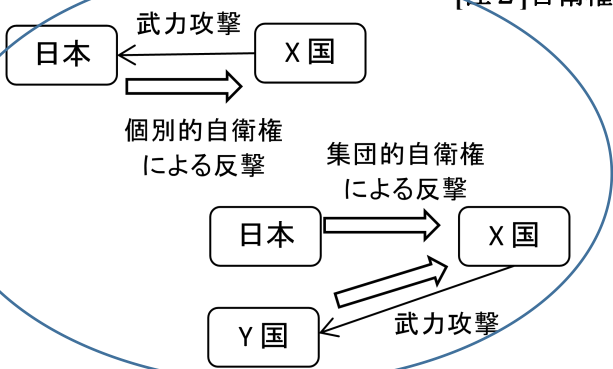
憲法9条は無力か

26軍隊のない国家は攻められたか？戦争には、理由がある。その要因をなくすこと。
軍隊がないから攻められるは、妄想。もっとリアルな国際政治論をすべき。

米ソ冷戦終結後、NATOを解体せず、ロシアを含む安全保障の枠組み構築の失敗は出発点の誤り、その時の反ロシア勢力にいたオバマ政権のバイデン副大統領が強行主張。

日本が学ぶべきことは、早く朝鮮を含む安全保障の枠組みを作ることに。

[注2]自衛権



ダンバートン・オークス提案
第2次世界大戦の末期ワシントン郊外、ダンバートン・オークスで開催された国際会議。
米、中、ソ、英の代表による国連憲章の草案を作成。
45年4月サンフランシスコ会議に連合国50カ国が招請され6月に採択、10月国際連合が発足。